



一ふるさと「東通村」の魅力や深み

星野リゾートは、社員が土地の魅力を自分たちで見つけて、お客様に提供できるよう磨く働き方があります。地域の魅力を発見する原点は村にあると言います。「東通村は、能舞や田植え餅つき踊りを昔からずっと守っていることがすごいと思います。誰か始めた人がいて、続けてくれた人がいて、今に繋がっているので、東通村の魅力は、目に見えるモノとして、能舞、餅つき踊りや食べ物がありますが、その後ろにある、それを守っている人が魅力であり深みなのかなと思います。」

一星野リゾート 青森屋の総支配人へ

星野リゾートは、マネジメントに挑戦したい者が自ら立候補する制度があるそうです。年2回プレゼン大会があり、プレゼンをもとに、配属先が決められるそうです。須道さんも、プレゼン大会に挑戦し、令和3年度に晴れて、「界 加賀」（石川県）の総支配人に着任されました。その後は、人事異動によって、星野リゾート 青森屋の総支配人に着任され、現在に至ります。

一知識と努力に裏打ちされた企画の発案

「星野リゾート 青森屋」は、斬新で話題性のある魅力発信が特徴的です。それらを生み出すために、週に1回、アイデアを出し合う“魅力会議”を行っているそうです。「行き詰った時は、アイデアの作り方やマーケティングに関する書籍を読み、まずは知識をインプットしてからやってみることを大事にしています。」また、普段から、テレビを観て面白い企画があると、“青森らしく作り変えるにはどうしよう”と考えると言います。ソースはブルーベリーを使ったり、南部せんべいを使ったり…、青森に変換してみると、新しいアイデアが浮かぶそうです。



一お仕事をするうえでのこだわり

お客様に提供する魅力は、青森らしさが凝縮されていることにこだわるそうです。そして、それを県民から見ても違和感がないかにこだわり抜くと言います。スタッフに対しては、伝えたいことを120%で伝えることを大切にされているそうです。「伝えたいことを120%で伝えると、100%くらいで相手に伝わります。いただいた仕事も、80%で行うのではなく120%で行っています！」



一今後の展望

須道さんは、先輩スタッフのおかげで、これまで楽しく働くことができたと言います。「総支配人になるきっかけでもありますが、1人でも多くのスタッフが、楽しく働けるような職場にしたいです。そして、青森県を世界中で有名な場所にする、100年後も青森県が観光地として存在するためにこれから貢献していければと思います。」